

# 地理歴史

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進～主体的・対話的で深い学びの視点からの指導と評価～

### (2) 研究のねらい

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のためには、単元や題材など内容のまとまりを見通した「単元の指導と評価の計画」を作成することが重要である。「主題」や「問い」を中心に構成する指導と評価の計画を作成し、資料を活用して事象を多面的・多角的に考察する学習活動を設定することで、生徒の資質・能力の育成を図ることを研究のねらいとする。また、指導と評価の一体化の観点から、学習記録表(ポートフォリオ)を取り入れることで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の見取りについて妥当性と信頼性の担保された評価となりえるか検証する。

## 2 実践事例

### 【事例1】

#### (1) 単元指導計画

ア 科目名：地理総合

イ 単元名：国際理解と国際協力((1) 生活文化の多様性と国際理解)

ウ 単元の目標：場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、世界の人々の生活文化の多様性や変容、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性を理解する。

#### エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。</li> <li>世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

#### オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	気温と降水 ・気候と人々の生活の関係 ・世界の住居の特徴から気候について学ぶ	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>気候と人々の生活の関係についての理解</li> <li>学習記録表(評価表)への取組(知識・技能)</li> </ul>
2	2	大気大循環 ・大気大循環 ・風の発生の仕組み(台風等)		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>大気大循環についての理解</li> <li>学習記録表(評価表)への取組(思考・判断・表現)</li> </ul>
3	3	気候区分 ・気候区分(ケッペン)	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>ケッペンの気候区分についての理解</li> <li>学習記録表(評価表)への取組(知識・技能)</li> </ul>

4	4	気候帯の特徴 ・世界の各気候帯の特徴	●		・世界の各気候帯の特徴の理解 ・学習記録表(評価表)への取組(知識・技能)
5	5	気候帯の比較(本時) ・各気候帯の比較 ・人々の生活文化の形成要因や多様性について考察 ・気候についてのまとめ		○ ○	・各気候帯の比較を通して人々の生活文化の形成要因や多様性についての理解を促す ・学習記録表(評価表)への取組(思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)

カ 授業実践例 (5時間目/5時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点(評価方法)
<p><b>1. 導入(2分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の目標確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>世界の国々の生活文化の比較を通して生活文化を形成する要因について理解する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方の説明</li> </ul> <p><b>2. 展開①(6分)</b></p> <p>※班作成(5人1班×8)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>衣食住の分類(4分)</li> </ul> <p>衣食住を気候帯の特徴に照らし合わせながら分類を行い、理由も考察・表現する。</p> <p>※下記の内容が記入されているGoogle Jamboardを各班に配付し分類と理由の記入を行わせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高床式住居、キャッサバ(いも)、サロン、なつめやし、日干しレンガの住居、袖丈の長い衣服、オリーブ、イタリアの住居(アルベロベッロのトゥルツリ)、紳士服(スーツ)、ライ麦、イヌイット住居、厚手の帽子や防寒着</p> </div> <p>分類後</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>熱帯 …キャッサバ(いも)、高床式住居、サロン          乾燥帯…なつめやし、日干しレンガの住居、袖丈の長い衣服、          温帯 …オリーブ、イタリアの住居、紳士服(スーツ)          亜寒帯・寒帯…ライ麦、イヌイットの住居、厚手の帽子や防寒着</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>各班の意見を全体に共有(2分)</li> </ul> <p>気候が、人々の生活文化を形成する要因であることを理解する。</p> <p>※次に繋げるために「気候が似ていると生活文化も似るだろう」と仮説を立てる。</p> <p><b>3. 展開②(40分)</b></p> <p>※仮説を検証するための発問を行う。</p> <p>発問：「気候が似ていると生活文化は似るのだろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検証のために各気候帯の代表的な都市を調べてまとめる(20分)。</li> </ul> <p>※代表的な都市は教師が指定し都市名と雨温図を生徒に示す。</p> <p>※各班の都市は、教師側で指定(下記参照)しGoogle Jamboardで配付を行う。</p> <p>※まとめ方等の説明を行う。</p> <p>※共通点と相違点をまとめるように促す。</p> <p>また、都市(国)の生活文化を調べるように促す。</p> <p>※2分で発表できる内容にするように伝える。</p> <p>※発表資料は配付したGoogle Jamboardを使用し1枚で作成するように伝える。</p>	

熱帯の都市

- 1班 熱帯雨林気候(Af)
  - クアラルンプール(マレーシア)とタクロバン(フィリピン)
- 2班 サバナ気候(Aw)
  - コルカタ(インド)とサンパウロ郊外(ブラジル)

乾燥帯の都市

- 3班 砂漠気候(BW)
  - ラスベガス(アメリカ)とニズワー近郊(オマーン)
- 4班 ステップ気候(BS)
  - ウランバートル(モンゴル)とハリコフ郊外(ウクライナ)

温帯の都市

- 5班 地中海性気候(Cs)
  - ローマ(イタリア)とロサンゼルス(アメリカ)
- 6班 温暖湿潤気候(Cfa)
  - 東京(日本)とダーバン(南アフリカ共和国)

亜寒帯の都市

- 7班 亜寒帯湿潤気候(Df)
  - モスクワ(ロシア)とフェアバンクス(アラスカ - アメリカ)

寒帯の都市

- 8班 ツンドラ気候(ET)
  - ニーク(グリーンランド)とバロー(アラスカ - アメリカ)

生徒の作成資料

**3班 砂漠気候帯**

**教師から提示**

Google Jamboard 例

ラスベガス (アメリカ)

ラスベガス都市の画像

「ラスベガス(ネバダ州)」の雨温図

ラスベガス 人口59万人

特産物：デーツ・いんげん豆・大理石・乳香

ラスベガスの主要産業はカジノ観光業がさかん

共通点 気温や降水量が似ている

相違点 産業、寒暖差

ニズワー (オマーン)

ニズワー、日干し煉瓦の住宅の画像

「ニズワー」の雨温図

ニズワー 人口38万7111人

主要産業：石油関連業・農漁業・銅鉱業

男性の伝統衣装は足首まである長袖の襟のついたガウン

女性の伝統衣装には「シルワル(sawal)」という名刺や「ハムフ(humf)」という髪飾りがある。

高気、低気、寒気、湿気が主要気候として発生する。気候変動のCO2、メタンなどが使用される。

付箋は生徒がまとめたもの

・各班の発表を受けて各自の考察を思考・判断・表現として評価

・学習記録表への取組(表現)を主体的に学習に取り組む態度として評価

- ・各班の発表者が各班へ出向き発表を行う(1班2分×7=14分)。
- ・全班の発表終了後、仮説(教師からの問い)の検証を考察し表現する(3分)。
- ・教師の問いに対する回答の相互評価(3分)。

4. まとめ(2分)

- ※自然環境だけではなく社会環境も人々の生活文化を形成する要因であるということを理解させるため、教師からのまとめを行う。
- ・テーマのまとめ「国際理解を行う上で必要なことは何か」の記入を宿題にする。

研究実施校：神奈川県立松陽高等学校(全日制)  
 実施日：令和4年10月12日(水)  
 授業担当者：西村 拓哉 教諭

参考文献・資料

- ・使用教科書『高等学校 新地理総合 帝国書院、『新詳高等地図』 帝国書院
- ・『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説地理歴史編』 文部科学省
- ・『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ補足資料』 文部科学省
- ・学習記録表(評価表)の参考図書 『単元を貫く「発問」でつくる中学校社会科新授業&評価プラン』 内藤圭太 明治図書株式会社(2021年9月出版)

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 授業づくりの取組について

今回の研究テーマ「組織的な授業改善の推進～主体的・対話的で深い学びの視点からの指導と評価～」の研究にあたって地理総合を題材として取り扱った。『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説地理歴史編』 p.54の大項目の2番目である「B国際理解と国際協力(1)生活文化の多様性と国際理解」において「地理的環境が生活文化にどのような影響を与えているのかを考察するために…世界各地の生活文化がその特色ある地理的環境を生かして生まれていることを考察する」といった学習活動が考えられる」を参考に、世界の人々の生活文化を比較させることで国際理解に必要な多面的・多角的に考察し表現する授業を考えた。

まず、主体的・対話的で深い学びを行うためには、生徒の既存の知識をもとに他者との協働などを通して見方・考え方を働かせながら物事や事象のより深い理解を促す仕掛け作りが必要だと考えた。そこで、単元を通してどのようなことを生徒に学ばせる必要があるのかを整理するために指導と評価の計画表の作成を行った。また、指導と評価の計画の実行にあたり単元を貫く問いの設定や授業ごとの教師からの発問の設定を行っている。生徒の表現活動の充実を図り、生徒が授業で身に付けた知識の整理に繋げるために授業ごとの発問の設定を行っている。そのため、単元を貫く問いや授業ごとの発問を一覧表にまとめた学習記録表(評価表)の作成も合わせて行っている(図1・2を参照)。その中で、生徒の表現力の向上を促すために、生徒同士の相互評価を取り入れている。生徒の評価は、あらかじめ学習記録表(評価表)に評価基準を提示し評価を行わせている。生徒の相互評価は、生徒の読解力の向上や表現力の向上を目的としている。注意としては生徒の相互評価は、記録に残す評価としていない点である。理由は、生徒によって評価基準に違いが生じてしまう可能性が高いため評価の正当性を欠いてしまうと判断したためである。

地理総合 世界の気候と人々の生活 評価表 1年 組 番 氏名 ~単元のテーマ~ 気温や降水、風などの気候要素は場所によって異なる。人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているのか。そして、世界各々ではどのような生活が営まれていたのかを学び国際理解を進めよう！ ・単元を貫く問い 「国際理解を行う上で、必要なことは何か？」 ・単元の導入 「気候」と人々の関係はどのような関係だと考えるか、率直な意見を記入しよう！	
テーマについての学習項目 <input type="radio"/> 1 気候と人々の生活の関係について <input type="radio"/> 2 大気の状態について <input type="radio"/> 3 ケッペンの気候区分について <input type="radio"/> 4 気候帯の特徴について <input type="radio"/> 5 同一気候区分の比較	
・教師の問いに関する記述の評価基準	
知識・技能 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性を生み出していることや、地理的環境の条件によって異なる生活文化について具体的に考察している。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、他の文化を学習し国際理解を促すことのできる問いについて具体的に記述している。	思考・判断・表現 ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が思われる場所の気候や自然及び社会的条件との関係について、見られる現象や気候帯の特色について考察している。
・各授業の教師からの問い一覧 *各節は、評価内容(●●)を基に評価基準と照らし合わせながら評価を行う。 *下線部+波線部両方記入でA 下線部、波線部どちらか一方記入でB どちらの記入もない場合C	
<input type="radio"/> 1 気候と人々の生活はどのように結びついているだろうか？ 評価内容(知識・技能)	
さんへ( ) より) 他者評価 A・B・C	
<input type="radio"/> 2 なぜ南からきた台風は日本で西から東にコースを変えるのか？ 評価内容(思考・判断・表現)	
さんへ( ) より) 他者評価 A・B・C	
<input type="radio"/> 3 ケッペンの気候区分の長所と短所はなんだろうか？ 評価内容(知識・技能)	
さんへ( ) より) 他者評価 A・B・C	
<input type="radio"/> 4 気候の影響によってどのような産業が発展するだろうか？ 評価内容(知識・技能)	
さんへ( ) より) 他者評価 A・B・C	
<input type="radio"/> 5 気候が起きていると生活文化は異なるだろうか？ 評価内容(思考・判断・表現)	
さんへ( ) より) 他者評価 A・B・C	

図1 学習記録表(評価表)プリント(表)





さらに今回の単元を通して生徒がどのようなことを学び得たのかを単元を貫く問いの回答から読み解く。

<p><b>単元を貫く問い</b>  <b>「国際理解を行う上で必要なことは何か？」</b>  <b>主体的に学習に取り組む態度として評価</b></p>	<p><b>国際理解がなぜ必要なのか</b>  <b>という視点について触れつ</b>  <b>つ、具体的な自身の解決策</b>  <b>について述べられている。</b></p>
<p>国際理解が必要とされているのは、戦争に関し、経済に関し、問題を解決するため      だと思うので、気候や土地に対してだけでなく、宗教や食文化、経済成長の具合など幅      広い視野でその国を理解しようとする必要があると思う。そのためには、理解するに      じやなく理解されるというのも大切だと思うので、SNSを利用した情報の発信やSDGs      のような国際的な目標に向かって一緒に活動していくという問題解決に向      けて大切なことだと思う。これからの社会をつくらせていく身として今のうちから国際情      勢や歴史も勉強したり、SNSを用いた情報の発信や他国の人々はどうな人々な      のか知って自分達にもできることを探していきたいと思う。</p>	

図4 単元を貫く問いへの生徒の回答例

多くの生徒が多様な視点が必要であるというこちらの狙いを理解していた。ただ、なぜ国際理解を求められているのかという視点が抜けている生徒が多かった。なお、単元を貫く問いへの回答を主体的に学習に取り組む態度として評価を行っている。理由としては、授業ごとの問いは授業で身に付けてほしい知識や技能、考えてほしい思考力・判断力・表現力等をもとに設定しており、それらの知識を踏まえ、自己調整等を行いながらまとめる役割を果たすのが単元を貫く問いだと考えているためである。そのため、単元を貫く問いは、単元全体を通した学びで回答ができる発問にしないといけない。図4に示した生徒は、今回の評価でA評価を付けた生徒の記述内容である。国際理解がなぜ必要なのかという視点を踏まえ、自分なりの考えを具体的に表現できているという点からA評価を付けた。様々な視点のみの記述はB評価とした。

## エ 成果と課題

成果としては、2点あげられる。まずは、指導と評価の計画の作成によって生徒に何を考えさせたいのか、何を身に付けさせたいのかの見通しを整理することができたということである。次に、学習記録表(評価表)の作成によって様々な効果があったということである。様々な効果とは、生徒の学びの蓄積が可能(振り返りにも活用)になり、単元を貫く問いへの回答(まとめ)に活用できたということである。さらに生徒同士の相互評価を導入したことで評価側の読解力向上と記述力向上にもつながったということ。最後に生徒が授業で学んだ内容について教師側の振り返りに活用できたということである。

課題としては、2点あげられる。学習記録表(評価表)に示している評価基準が自校の生徒の状況に応じた評価基準になっているかどうかの検証が必要であるということ。また評価基準を生徒に示すかどうか検証が必要であるということである。

## 【事例2】

### (1) 単元指導計画

- ア 科目名：世界史A
- イ 単元名：第二次世界大戦
- ウ 単元の目標：第二次世界大戦に向かう20世紀前半の世界の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、基軸となる問い「国際社会は、なぜ第二次世界大戦の勃発を防ぐことができなかつたのだろうか」を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

エ 単元の評価規準 a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：資料活用の技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
第二次世界大戦の推移や大戦後の世界に与えた影響について関心を持ち、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	各国の世界恐慌への対応の特徴やファシズムの台頭を基に、国際協調体制の動揺の要因を多面的・多角的に考察し、表現している。	地図や諸資料を活用し、世界を空間的に認識しながら、複数の資料から問いの考察の根拠となる有用な情報を読み取っている。	世界恐慌からのファシズムの台頭、第二次世界大戦の展開の特徴や背景について、現代社会と関連付けて理解している。

オ 単元（題材）の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習内容及び学習活動 それぞれの項目での問い	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	1 ～ 2	世界恐慌 「世界恐慌をきっかけに各国の経済政策はどのように変化したのか」 ・既習のドーゾ案を思い起こし、ドイツ経済への影響を考える。 ・世界恐慌への各国の対策の違いを理解する。	○	●			・第二次世界大戦勃発の要因を探る視点を持ち、主体的に課題を追究しようとしている。 ・各国の世界恐慌への対応の特徴を、多面的・多角的に考察している。	ワークシートの記述内容
2	3 ～ 5	日中戦争 「日本が中国侵攻に至った背景には何があったのだろうか」 ・「世界史A学習の記録」プリントの前時の世界恐慌についての問いの考察を相互評価する。 ・位置関係を整理しながら、満州事変、日中戦争の流れを把握する。			●		・既習の東アジアの民族運動を踏まえ、地図を活用し位置関係を整理しながら、日本の動きと中国の動きを空間的に把握している。	ワークシートの記述内容
3	6	イタリアのファシズム ・「世界史A学習の記録」プリントの前時の日中戦争についての問いの考察を相互評価する。 ・イタリアのファシズムの一党独裁の流れを理解する。				●	・これまでの社会情勢を踏まえ、ファシズムという概念を理解している。	ワークシートの記述内容
	7 本時	ドイツのファシズム① 「なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか」 ・ヒトラーの演説に熱狂する民衆の様子等から、なぜナチスはドイツ国民に支持されたのか考えていく。 ・諸資料から問いの答えを導き、議論する中で考えを深めていく。	●	●			・視点の異なる資料に対し関心を持ち、主体的に共有しようとしている。 ・諸資料をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	ワークシートの記述内容
	8	ドイツのファシズム② ・「世界史A学習の記録」プリントの前時の問いの考察を相互評価する。 ・ドイツのファシズムの一党独裁の流れを理解する。				●	・前時の活動を踏まえ、ナチスの一党独裁の流れを、現代社会と関連付けて理解している。	ワークシートの記述内容

4	9 ～ 10	第二次世界大戦の勃発 「ドイツのヨーロッパ侵攻や日本のアジア侵攻の大義名分は何だったのだろうか」 ・ドイツや日本の動きに対する国際社会の対応の変化を理解する。		●		・第二次世界大戦に突入した要因を、多面的・多角的に考察し、表現している。	ワークシートの記述内容
5	11 ～ 12	第二次世界大戦の終結 「 <b>連合国は、戦後どのような国際秩序を築こうとしたのだろうか</b> 」 ・「世界史A学習の記録」プリントの前時の第二次世界大戦の勃発についての問いの考察を相互評価する。 ・ドイツと日本の敗戦と連合国の首脳会談の内容を理解する。			●	・第二次世界大戦終結への流れを、現代社会と関連付けて理解している。	ワークシートの記述内容
	13	基軸となる問い「 <b>国際社会は、なぜ第二次世界大戦の勃発を防ぐことができなかったのだろうか</b> 」を考察する ・「世界史A学習の記録」プリントの基軸となる問いの考察を相互評価し、発表して共有する。	○	○		・基軸となる問いについて主体的に追究しようとしている。 ・基軸となる問いについて多面的・多角的に考察し、表現している。	ワークシートの記述内容

\*上記の評価と定期試験を合わせて評価を行う。

#### カ 授業実践例 (7時間目/13時間)

学習活動 (指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p><b>1. 導入(10分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの復習：イタリアのファシズム、世界恐慌後のドイツ</li> <li>・本時の舞台であるドイツの ①ヒトラーの演説動画(1933年)を視聴。</li> <li>・基軸となる問い「<b>国際社会は、なぜ第二次世界大戦の勃発を防ぐことができなかったのだろうか</b>」 →項目の問い「<u>なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか</u>」 問いに対する考察を班ごとに探っていき、最終的には自分で「世界史A学習の記録」プリントに記述するという本時の流れを把握する。</li> </ul> <p><b>2. 展開①(18分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・列ごとに資料を配付し、資料兼ワークシートに取り組む。</li> <li>A列：“女性”に関する資料 <ul style="list-style-type: none"> <li>②解説資料 ナチズムとジェンダー</li> </ul> </li> <li>B列：“経済”に関する資料 <ul style="list-style-type: none"> <li>③演説 全ドイツ労働総同盟書記エッガードによる演説(1932年)</li> <li>④統計資料 ドイツの国民総生産の推定値(1928～1943年)</li> <li>⑤統計資料 登録失業者数(1929～40年)</li> </ul> </li> <li>C列：“民族”に関する資料 <ul style="list-style-type: none"> <li>⑥手記 M. マシュマン『結末』(1933年)</li> <li>⑦手記 『ナートルフの日記』(1934年)</li> <li>⑧ヒトラーの著作 『わが闘争』(1925年)</li> </ul> </li> </ul> <p>※A～Cの資料はそれぞれ2列ごとに配付。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートごとの小さな問いに対し、個人で考え記述。(10分) “根拠”を示しながらまとめる。</li> </ul>	<p>●思考・判断・表現 各資料をもとに、</p>



<p>・その後、列ごとに3～4人の班を12班作り、班で共有し、議論する。(5分)</p> <p><b>3. 展開②(34分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班替えをし、A～Cの資料を使った班員が1人以上いるように別の班を組む。</li> <li>・それぞれの班で導き出した考察を共有。 →資料が異なることによる差異と、異なる資料にも関わらず導かれた共通部分について整理する。(10分)</li> <li>・様々な理由から、国民がナチスを支持したことを理解した上で、⑨統計資料 国会選挙の得票率(1919～1933年)を見て、得票率は伸びているが、最大でも約43%の得票率にとどまっていることに気付く。 →冒頭で見た演説のように国民皆が熱狂しているのはなぜか？(5分)</li> <li>・⑩風刺画 ヒトラーの演説風景(1936年)を配付し、班で協力して内容を読み取る。(10分)</li> <li>・読み取った内容を発表する。(5分)</li> <li>・A～Cの3種類の資料と風刺画から、「なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか」の問いに対する考察を改めて考える。</li> </ul> <p><b>4. まとめ(3分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界史A学習の記録」プリントの問いに各自答えてくるのは、宿題とする。 ※本日の資料A～Cは、この後Google Classroomにあげ、自分の担当以外の資料も確認できるようにする。</li> <li>・次回授業冒頭に相互評価を実施。プリント提出。</li> </ul>	<p>問いについて考察。 次回、プリント提出により評価。 「指導に生かす評価」とする。</p> <p>●関心・意欲・態度 次回、プリントの生徒相互評価により評価。 「指導に生かす評価」とする。</p>
--	--

研究実施校：神奈川県立鎌倉高等学校(全日制)  
実施日：令和4年11月2日(水)  
授業担当者：土谷 優子 教諭

※参考文献・資料

- ①：You Tube「ヒトラー首相就任演説」<https://youtu.be/0KU7UM3i4qw> (11月2日時点で取得)  
11' 00"～13' 35" ヒトラー入場、演説開始  
31' 00"～32' 30" 演説半ば

②：三成美保他『歴史を読み替えるジェンダーから見た世界史』 大月書店 p.248-249

③⑥⑦：歴史学研究会『世界史史料 第10巻 20世紀の世界 I ふたつの世界大戦』 岩波書店  
③p.217、⑥⑦p.230

④⑤⑨：リチャード・オウヴァリー『地図で読む世界の歴史 ヒトラーと第三帝国』 河出書房新社  
⑨p.119、④⑤p.120

⑧：第一学習社編集部『グローバルワイド 最新 世界史図表 五訂版』 第一学習社 p.358

⑩：若林悠『風刺画とジョークが描いたヒトラーの帝国』 現代書館 p.17

※風刺画で、演説台の下に閉じ込められている人たちの首に掛かっているプレートの英語(左から順に)

- ・RELIGIOUS FREEDOM Suppressed(宗教の自由 抑圧)
- ・ACDEMIC FREEDOM Suppressed(学問の自由 抑圧)
- ・LABOR UNIONS・～TERNAL ASSOCIATIONS・OPPOSITION PARTIES Suppressed  
(労働組合と共済組合と反対党の自由 抑圧) \*一部英語解読不能
- ・WOMENS INDEPENDENCIES Suppressed(女性の自立の自由 抑圧)
- ・FREEDOM of the PRESS Suppressed(報道の自由 抑圧)
- ・JUDICIAL INTEGRITY Suppressed(司法の独立の保全 抑圧)

その他参考文献：内藤圭太『単元を貫く「発問」でつくる中学校社会科新授業&評価プラン』 明治図書

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント  
ア 本時の授業について

今回の単元「第二次世界大戦」において、『高等学校学習指導要領(平成21年告示)解説 地理歴史編』p.22「世界恐慌が戦間期の国際秩序に危機をもたらし、新たな国際対立を生み出したことを理解させる。その際、…ドイツのナチズムなどを取り上げ、ファシズムの台頭を大衆社会化現象と関連付けて理解させる。」を参考に、「なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか」という問いを設定して、ナチスの主張や政策、ドイツ国民の立場からのナチス政権の見え方、そして反対派の存在といった多面的・多角的な歴史的観点で問いについて考察し、歴史的思考力を培う授業を構成した。

生徒はヒトラーやナチスについては中学校までにある程度の知識は獲得していることから、今回は敢えてこちらから先に講義等を行わず、まず当時のナチスの考え方やドイツ国民の様子を垣間見える資料を提示し、生徒に読み取らせ、思考を促す。その上で各々が読み取った内容を共有し、さらに別の資料からの考察結果を共有することで、多面的・多角的な視点を獲得させることがねらいである。

当時のドイツ国民がナチスを支持した要因が見えてきたところで、今度は冒頭で提示した動画のような全国民の熱狂的支持の雰囲気がある一方、実際の得票率は43%止まりであり“全国民ではない”という視点にも着目させた。そして、風刺画を読み取らせることで、熱狂した国民の裏で多くの人々が口を塞がれ捕らえられていた現状を理解させ、この授業で獲得した視点や思考力をを用いて、最後には宿題で「なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか」という問いについて考察する流れとなっている。その考察については、別紙「学習の記録」プリント(図1・2)に記述し、記録していく。

### イ 本時の後の流れ・成果

授業プリント No.8~12 **世界史A 学習の記録**  
 2年 組 番 氏名: \_\_\_\_\_  
 ~テーマ~ **国際社会は、なぜ第二次世界大戦の勃発を防ぐことができなかったのだろうか**

①テーマについて知っていることを書こう  
※必ずでもOK!

②テーマについて“わからない”こと、疑問に思ったことを書こう!  
教科書を読んでもよくわからなかったこと等…

③学習しよう・探究しよう

問1 世界恐慌をきっかけに各国の経済政策はどのように変化したのか	相互評価
コメント	
	A・B・C
	評価者( )
問2 日本が中国侵攻に至った背景には何があったのだろうか	相互評価
コメント	
	A・B・C
	評価者( )
問3 なぜドイツ国民はナチスを支持したのだろうか	相互評価
コメント	
	A・B・C
	評価者( )

図1 「学習の記録」プリント(表)

問4 ドイツのヨーロッパ侵襲や日本のアジア侵襲の決意を分けたのだろうか	相互評価
コメント	
	A・B・C
	評価者( )
問5 連合国は、戦後どのような国際秩序を築こうとしたのだろうか	相互評価
コメント	
	A・B・C
	評価者( )

④まとめよう・つなげよう  
 ●授業での学習を振り返って、テーマに対する解を記述しよう。

相互評価 コメント

A・B・C 評価者( )

●授業での学習を振り返り、あなた自身が感じたこと・考えたことや、これからも問い続けていきたいことをそう思った理由とともに書こう。

自己評価 A・B・C

図2 「学習の記録」プリント(裏)

本時の次の授業では、宿題としていた「学習の記録」の問いの考察を生徒間で相互評価する。ここでも、他の生徒の考察を読むことで、また新たな視点を獲得させるねらいがある。その上で別紙授業プリントを確認していき、ドイツの地理的条件等を補足しながら、知識を体系化していく。そして最終的には、単元の基軸となる問い「国際社会は、なぜ第二次世界大戦の勃発を防ぐことができなかったのだろうか」に答えていき、生徒同士意見を交換して現代の世界の動向と平和の意義についても考えさせる。

今回、この研究収録の執筆までに基軸となる問いの考察まで辿り着けなかったため、単元全体の研

究結果をここで紹介することはできないが、本時の問いである「なぜドイツ国民は、ナチスを支持したのだろうか」についての生徒の考察を紹介したい。

一つ目の考察ではナチスの政策が具体的かつ適切にまとめられており、二つ目の考察では既習事項にも触れながら反対意見を抑圧している側面も書かれている。

- ・ナチ党、特にヒトラーは以前の政治から大きく改革をした。特に世界恐慌で大量に生まれた失業者を公共事業や国営企業などを作るなどして救済措置をした。また、女性の権利がまだ各国で定められていなかった中、手厚い保障をして女性から多くの票を集めた。一方で、外国人やユダヤ人を明確に「敵」とすることで国民の一体感を高めるなどした。
- ・ドイツ国民はWW I の賠償金や世界恐慌の影響を受け苦しんでいた。ヒトラーはこれをユダヤ人のせいにし、ドイツ人を団結させた。ナチスを支持すれば生活が改善し、支持しなければ恐ろしい目にあうと考えたドイツ人は支持した。ナチスは大衆心理を利用して、大衆の支持を得て、ドイツ国民の多くの人々に支持された。

また、今回のような授業形式について、研究授業後にとったアンケートには次のような声もあった。

- ・講義を聞くよりやっぱり考えて話し合ってたってすると、より理解が深まったと思う。それぞれ持ってるワークシートがちがうと知ったときはえっ！！って思ったけど、違う視点から同じ議題を話し合えるのは面白かったです。

三つのワークシートの共有に至るまで、生徒はまさか隣の人が違う資料を持っていたとは思ってもよらなかったようで、他の生徒がどんな資料を読んでいたのか大変興味を持ち、まさに主体的・対話的に共有してくれていた。それぞれの担当箇所を学び、学んだものを共有する授業形態であるジグソー法が効果的に活用され、物事を多面的・多角的にとらえていく一つのきっかけを与えられたように思う。

本時の授業形式では教員から“教える”という場面はほとんどなかったが、考察やアンケート結果からも、今回の授業で伝えたいことが着実に生徒に届いていたのだと再確認することができた。この研究授業のために夏を費やして様々な書籍を読んで、このグループワークに使えるような資料を探した甲斐はあったといえる。だが、このような教科書・資料集以外の資料を多量に用いる授業をゼロからつくり上げていくのには、かなりの時間を費やす覚悟が必要である。

## ウ 評価の扱い

「学習の記録」の記述内容の生徒相互評価は「指導に生かす評価」とする。この単元の授業開始時に、まず基軸となる問い(テーマ)について知っていることや疑問に思ったことを書かせ、自身の認識を整理した上で、問1から問5にかけて授業で学んだ視点や思考力を生かして記述をしていく。その中で少しずつ理解が深まり、視野が広がっていくことが望ましい。

そして最終的には、これまで見落としていた視点等を含めた形で、基軸となる問いに対する考察を論述していく。ここも、生徒同士で読み合っほしいため相互評価は行う予定だが、教員の方でも評価を行い、この評価を「記録に残す評価」とする。

この「学習の記録」プリントは、新学習指導要領における“主体的に学習に取り組む態度”の観点の評価していくことを視野に入れ作成している。ここには、生徒が知識を獲得し、思考力、判断力、表現力を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤していく様が記録されていく。今回の研究授業は「世界史A」での実施だが、新学習指導要領「歴史総合」では“主体的に学習に取り組む態度”を評価していく必要があり、生徒自らの学習を調整しながら学ぶ意志的な側面がこのプリントでどのように浮かび上がってくるか、今回試行的に検証している。

本来であれば、そこまで含めてここに検証結果を記すべきところであるが、まだこの単元の最後の記録に残す評価まで至っていない。その代わりに、生徒が実際に相互評価を行ってみたいの感想を掲載する。

- ・実名で人の評価をするから、A以外書きにくい。(人間关系的な)
- ・プリントの問いがあることで、全体の振り返りができるし、視点を増やせてよかった！ただ、ペアの評価をするのが難しい。基準がわからない…
- ・いろんな視点からの意見や、まとめ方を知れて、新しいことに気づける。自分が思っていたことと全然違ったり、本当にいろんな角度から出来事を知れて面白い！！

相互評価については、この単元では明確な評価基準を生徒に示していない。ただの知識の羅列はB、知識の羅列にとどまらず、その項目を俯瞰的にとらえて多面的・多角的に言及しているものはAということをお口頭で伝えている。生徒はそれに則って評価はしているものの、感想にもあったように、付度からどうしてもAを付けがちである。相互評価の基準の難しさを挙げる声も多くみられた。

しかしながら、わかりやすい具体的な評価基準を示そうとすると汎用性がなく、また、問ごとの詳細な評価基準を示してしまうことで答えを提示するような形にもなりかねない。生徒に相互評価をさせるための力をどう育成するかという課題がある。

ただ、他者の考察を読み込んでいく中で視点を増やせるなど、気づきを挙げる生徒も多くみられ、その点は今回の形式での授業の成果といえる。

また、研究協議において、評価基準を明確に示せば生徒の相互評価も「記録に残す評価」に使えるのか？という疑問も出たが、これはあくまでも「指導に生かす評価」である。今回の「学習の記録」では、最後にまとめの論述があり、そこに向かって自身の思考・判断・表現をより洗練されたものに改良していくために、相互評価を実施していく。項目ごとの問いの時にはうまく表現できなかったものが、相互評価を通して、最後の論述では表現できるようになる、その生徒自らが学習を調整しながら学んでいく主体的に学習に取り組む態度を、最後に教員が「記録に残す評価」として評価することになる。その教員の評価基準も手探りの部分が多く、特にAの評価基準をどう設定するのか、引き続き研究が必要である。

## エ おわりに

今回の授業では、教師の方で事前に問いを立てて「学習の記録」プリントにその問いを掲載し、生徒に単元の流れを見せた上で学習に取り組む形式をとった。この形式で進行していくためには、事前の教師の問い設定が重要となる。どのような問いを設定するかで、生徒の思考も変わってしまう。地理が専門の私にとってはここが一番難しく、適切な問いの設定に苦戦した。生徒に問いを立てさせる方式も模索してみたいが、生徒も同様に、ある程度の理解がないと適切な問いを立てるのは難しいだろう。調べれば簡単に答えがわかってしまう問いでは意味がなく、考えるきっかけを与えてくれる“答えのない問い”でなければならない。

地理歴史の授業では、特に「なぜ」という視点が大切である。これからの時代では、“答えのない問い”をもとに、なぜ？と生徒が思考・判断・表現をして能力を鍛えていくことが必要とされていると、今回の研究を通して改めて認識した。

さらに、地理歴史・公民科には、他教科にはない“平和で民主的な国家・社会の形成に必要な公民としての資質・能力を育成する”という使命がある。この使命に適した題材が今回の単元、今回の授業形式であり、現代の政治・民主主義について考える“種まき”が、今回の授業でできたのではと考える。